

第1回 長野県 ICT 学び推進協議会 議事録

R3. 5. 10
学びの改革支援課

1 日 時

令和3年5月10日(月)13:30~15:00

2 実施方法

Web 会議による

3 参加者

【信州大学】東原特任教授、村松教授、佐藤助教、両川公認心理士
【佐久市立野沢中学校】松島校長 【飯田市立鼎中学校】斎藤校長
【塩尻市立木曾檜川小学校】山本校長 【須坂市立東中学校】北原教諭
【佐久市中込中学校】瀬下教諭 【諏訪清陵附属中学校】五味教諭
【須坂市教育委員会】北村様 【長野市教育委員会】中田様
【佐久市教育委員会】高橋様 【東御市教育委員会】中村様
【松本市教育委員会】小川様 【塩尻市教育委員会】高橋様
【伊那市教育委員会】竹松様 【小海町教育委員会】中島様
【喬木村教育委員会】長坂様
【学びの改革支援課】曾根原課長、臼井義務教育指導係長
【義務教育課】早川学校支援幹
【北信教育事務所】田中指導主事 【東信教育事務所】池田指導主事
【中信教育事務所】白井指導主事 【南信教育事務所】中嶋指導主事
【総合教育センター】中村専門主事、安松専門主事
【DX推進課】大江課長
【総務事務課】坪井 ICT 教育活用アドバイザー
【長野県自治振興組合】大塚様
【県教委】箕田主任指導主事、丸山主任指導主事、松坂指導主事、齋藤指導主事、
高橋指導主事、荒井指導主事、傳田指導主事、畠山主任

4 内 容

(1) 開会あいさつ

【曾根原課長】

- ・長野県の教育委員会としての取組を紹介。
- ・学校や市町村教委は独自に展開しているところ県教委に依存しているところ等混在している。県教委としては指示・命令ではなく「動きたくなるメニュー」を作っていく、市町村教委の主体性を引きだしていきたい。

- ・前年は 8 月末までに出前講座を行った。県教委がメニュー提示を行い市町村教委が主体でやってもらっている。
- ・様々なアンケートを実施しているが、情報収集だけではなく、必要な施策を確認、結果をフィードバックし、全県の様子を紹介していきたい。
- ・クラウド ID の命名規則もそろえるように働きかけを行った。
- ・ICT 学び推進協議会を設け、先進的に取り組む市町村、学校を巻き込んだ協議会を以て助言をいただこうと考えている。
- ・将来的な ICT 活用イメージを提示、県の方向性を「オール長野」で行っていく。

【箕田主任指導主事】

- ・4 月 1 日に課内にセンターを設置。
- ・センター長として村松教授を迎え、有識者を迎えて ICT 教育の方向性等を検討。
- ・R3 年度から小中学校では ICT 教育が進んでいる。
- ・先進的に取り組む市町村や小中学校の担当を交えて、協議会を開き、情報共有をしながら、進めていきたい。
- ・本日は会の目標を村松センター長から提示。このことを受けて今後の具体的な取組を検討していきたい。

(2) 協議（司会：村松教授）

1) 目標案の提示

【村松教授】

目標案「子供たち全員がクラウドによる「同時共同編集」ができる。」

小学校低学年が課題になってくるかもしれないが、事例はある。

【喬木村 長坂】

目標の「できる」というのは、授業の中で行うのか、先生から配信したものなのか、子供たちが主催なのか、そのあたりのイメージがあれば。

受け身としてやるのか、理解して発信するのかで違ってくる。

【村松教授】

各学校によってさまざま。最低限体験できることが必要。

これを確認できるチェックリストのようなものが必要となってくるのでは。

【諏訪清陵附属中 五味教諭】

目標の行き先を教えていただければ（イメージや姿）。

【村松教授】

目標ではあるが目的ではない。

GIGAスクールを実現するための目標と考えている（ここまでは到達してもらいたいというもの）。

イメージで抽象化してしまうよりは、やったことを踏まえて次のステップにし

ていければ。

2) GIGAスクール構想の実現に向けた最新情報と実現へのポイント

【東原特任教授】

- 先ほどの目標のその先にあるものについて
 - ・これからの時代は答えがないところに生きていくことになる、何が問題になるか発見できるようにしなければならない。
 - ・多様な自立した他者と出会っていく中で新たな答えを見つけていくことになってくる。(AやBの考えを基にXという答えを見つけていくというようなイメージ。)
 - ・自分のことを言えるためには個性豊かな自立した考えが必要。
 - ・これらを実現する一歩として「同時共同編集」がある。
- 急に出てきたGIGAスクール構想であったが、これだけ進むとは思わなかったと文科省から県、市町村教育委員会に感謝。
- ただし、課題はある。
 1. GIGAスクール構想についてYouTubeで文科省から発信しているが、アクセス数が少ない、つまり見られていない。ぜひ見ていただきたい。
 2. 指示や命令ではなく、チェックリストを活用し、自分たちを振り返って課題を見つけるなど活かして行ってほしい。(単なる確認事項やアンケートではない)
- 日本全体でGIGAスクールの格差が広がっていている。
 - ・長野県はまだよいほう。長野県ICT学び推進委員会のような組織が一切ない都道府県、市町村もある。これによる学校の格差が進学校への格差に広がっていくことが懸念されている。
 - ・以前は経済格差が直結していたが、今後は学校現場の格差も要因となってくる考えられる。
 - ・長野県すべての子供たちが格差のないようにするため、どのように進めていくか協議していきたい。

3) 調査からわかる長野県の現状

【松坂指導主事】

- 令和2年度の市町村教育委員会に関する調査
 - ・調査内容について資料説明。(3人2台端末・1人1台端末の整備、ネットワーク状況、接続方法の改善、端末の持ち帰り状況等)
- 「令和2年度教育の情報化実態調査」に関する市町村教育委員会の調査
 - ・調査内容について資料説明。(管理・運用、ICTの活用、研修周知、組織・支援体制)

【村松教授】

インフラは進んでいる、これから本格的な稼働ということを感じた。

【諏訪清陵附属中 五味教諭】

資料内にあった端末の持ち帰りについて、端末の貸出しの調査をしたところ。家にあるので大丈夫という答えが多かったが、これも「持ち帰らない」に含まれるのか。

【松坂指導主事】

必要がなければ持ち帰らなくてもよい。

4) 1に関わって、意見交換

市町村教育委員会や現場の先生方より整備された端末を含む環境について意見聴取

【佐久市野沢中 松島校長】

今年度端末について子供達にアンケートを行う予定。教育委員会職員ではなく実際に端末を使用している子供達へのアンケートのため、このデータを活用していただければ。

【飯田市鼎中 斎藤校長】

今年度、学びの改革実践校に指名いただいている。飯田市は1人1台端末が入っているが、デジタル教科書では活用しているものの子供の考えをまとめる「共同編集」については進んでいない。

つまり、インプットには活用しているが、アウトプット、フィードバックには活用できていない。

また、アプリが充実していない。経済力のある学校、市町村が良いアプリを入れていき、格差ができないかが課題。

【塩尻市木曾檜川小 山本校長】

本校は規模が小さいため、他とは少し実情が違うかもしれないが、すべての教室でICTを活用している。市教委のバックアップがしっかりしている。

GWには家庭に持ち帰り学習を試行してみた。なお、Wifiの貸し出しはほとんどが家にあるため1件のみの希望であった。

【須坂市東中 北原教諭】

どの授業でもICTの活用を行っており、全校研究テーマとして「情報活用能力」に取り組んでいる。県の「信州Basic」と重ねながら情報収集、整理比較、発信、評価等を行い研究を進めている。

また、小中連携を緊密にしていくため小学校と協議を行っているところ。

【佐久市中込中 瀬下教諭】

職員はだいたい教育クラウドIDを早くから使っている。今までパワポで作っていたものについてICTを活用して行っていければ。Google For Education等のサービスについて、使えるところの情報共有をいただければ。

【諏訪清陵附属中 五味教諭】

早い段階から端末を使用している。ただし、ICT担当の先生に仕事が行き過ぎているため、各セクションへの割り振りを工夫している。共同編集は「Googleスプレッドシート」を使用したり「Google Meet」を使用して全校集会等を行ったりしている。

5) 充実した利活用に向けた取組

・信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター

【教育DXお悩み相談室】（信州大学 佐藤助教）

信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センターの取り組み事例を紹介。

1. 教育DXお悩み相談室
2. 遠隔教員研修・遠隔授業研修
3. 学生によるGoogle認定教育者取得セミナー

・長野県ICT教育推進センター

【出前講座・スタートガイド】（松坂指導主事）

センターの出前講座について資料説明。

- ・一学期は多忙なため、夏休みくらいまでに実施していければ。小中高一体となって出前講座が進んでいく。
- ・スタートガイドも作成したので活用していただきたい。

・特別支援教育課

【令和3年度の取組について】（傳田指導主事、両川先生）

（傳田指導主事）

長野県ICTインクルーシブ教育推進委員会について資料説明。

（両川先生）

個別の支援計画が各生徒にあるため、一人一人に対応できるように準備を進めていっている。学校の実情を教えてもらいながら協働していければ。先生たちの創造性、自主性を活かしていきたい。

・学びの改革支援課教科書係

【デジタル教科書見学会プロジェクト（4地区）】（荒井指導主事）

「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」、「デジタル教科書見学会」について資料説明。

【東原特任教授】

- ・将来的にデジタル教科書か紙教科書かの選択があるかもしれない。課題としてはデジタル教科書を熟知していないと選択肢に答えられない。将来の活用に備え

て、多くの先生がデジタル教科書に慣れていってほしい。そのための実証事業を現在行っている。

- ・現在、長野県の約半分の市町村が実証事業を行っているところ。ぜひ近隣市町村で連携し、どの先生でも1回はデジタル教科書に触れる機会を作っていってほしい。

6) 今回のまとめ・次回検討事項

【箕田主任指導主事】

- ・目標を村松センター長からご提示いただいた。この目標に向かって県全体で進んでいける形を作っていければ。それぞれの部署で守備範囲をしっかりと進めていきながら全県体制で進めていきたい。
- ・本年度は各教育事務所の ICT 担当指導主事、総合教育センターの専門主事が出前講座の実施等を行っていくため、良い事例や困った事例等も寄せていただき先生たちの困り感にも寄り添った支援をしていければ。

(3) 閉会（早川学校支援幹）

- ・本協議会は年間5～6回を予定しているが、スタートとなる本日の協議を通して GIGA スクール構想の実現に向けた現状・課題の認識と充実した利活用に向けた方向性を確認しあえたのではないかな。
- ・現場のすべての教職員、市町村教委の皆さんが ICT を利活用した事業改善について認識するにはまだハードルがあるのでは。そのハードルを下げていくのが本協議会、推進センターの責務ではないかと思っている。